

東京高等裁判所で

「控訴審」始まる

3月と4月の「進行協議」を踏まえ、5月25日午後1時30分に開廷した。

最初に 大野団長 より

50年近くにも及ぶ横田騒音裁判を経験する中、本訴因は解決されるべきと力強く陳述された。

続いて、八王子・日野支部の原告

後藤千恵子さん より



原告を代表して、裁判に至った騒音の現状を具体的に陳述された。もし、開廷前に裁判所書記官よりの注意がなかったならば、陳述終了と同時に割れんばかりの拍手があったであろうと自信を持って言える、よく通る大きな声でよどみなく、訴える点は力強く、7分あまりの陳述を終えた。(「陳述書」全文別掲)

続いて、関島保雄弁護士(弁護団長) より、本横田基地訴訟の意義を中心に、小林善亮弁護士 より、騒音被害による団欒の喪失、健康被害等を、小口明菜弁護士 より、オスプレイ配備問題、訓練飛行実態等を、富田隼弁護士 より、コンター外70W原告の被害や低周波音被害等を、杉野公彦弁護士 より、飛行差し止め、損害賠償の将来分の請求認めよと、

以上、全ての論点について弁護士先生よりの陳述がなされた。

被告側に陳述時間20分を予定していたのに

被告側は陳述することなく、「控訴理由書」「答弁書」等の提出を持って、陳述に替えた。人間の口から具体的に話される言葉を聞きたいものである。

「控訴審」今後の予定

☆ 第2回 口頭弁論(ビデオ検証) 7月27日(金) 午前10時30分開廷 場所: 東京高等裁判所(霞ヶ関です)

☆ 現地検証 9月27日(木) 時間詳細未定 場所: 八王子市久保山町(午前中) 場所: 横田基地周辺(午後) ーーーー上記予備日10月12日(金)

☆ 第3回 口頭弁論(本人/証人尋問) 11月20日(金) 午前10時~午後4時 場所: 東京高等裁判所(霞ヶ関です)

☆ 第4回 口頭弁論(結審予定) 2019年1月31日(木) 午後2時30分開廷 場所: 東京高等裁判所(霞ヶ関です)

当支部からは33名(バス乗車31名)もの参加で私達の意気を高く示しました。傍聴券の抽選でも、皆さんのご協力で、全員に行きわたりまして、満員の法廷内大きな区画を占めることができました。今後の審議の傍聴もお願いします。



後藤さんの 陳述内容



担当の吉田弁護士から「100点満点」との評価を頂いた。

今後、原告証人尋問は11月20日5時間の一回しかないという『短期決戦』であるので、一つ一つが大変重要で、原告みんなで被害感などを共有していくことが大事だと思います。

今回の後藤さんの陳述では町会の「騒音対策委員会」での活動(掲示板)を説明し、町会として騒音問題に取り組んでいること等を開陳する時間的な配分ができませんでした。

原告団のみならず住民の安全生活のために司法は英断を持って、判断をし、希望ある未来を提示してほしいものである。

八王子・日野支部としては、11月の原告証人尋問の折は、『自動騒音測定器』のデータと目視による、騒音被害の現状を証拠として提出し、裁判長に強く訴えることを予定しています。皆さんからの「被害感」の数値化、可視化への知恵をお待ちしています。

原告 後藤千恵子 (原告番号 536番)

1 私は、騒音コンター80Wの地域の八王子市久保山町に、1987年から住んでいます。子供が大きくなり前の住まいが手狭になり、広い住居を求めて住宅公園の土地分譲に応募しました。当時は不動産がバブルの時代でした。価格の高い土地を購入するので、現地は何回か下見に来ましたが、共働きでしたので日曜日にしか来られず、飛行機は飛ばず、騒音に気づかず、住んでみてはじめて騒音の大きさに驚きました。横田基地は知っていましたが、まさか購入した所が、飛行コース直下の騒音地域であることに気が付きませんでした。ここは、横田基地から遠く離れていますので、想像もしませんでした。

2 私の住んでいる町は、山を造成して団地にした所で高台にあります。私の家は飛行コース直下にあり、飛行機のお腹が見えて、操縦士の顔が見えるような気がするくらい低く飛びます。

飛行騒音で家族との会話や、友達との電話の声が聞き取れず、何回も聞きなおすことを繰り返しております。またテレビの音声が聞こえず、ドラマの続きがわからなくなって気分が興ざめしたり、音楽を聞いていても騒音に邪魔されてしまいます。

働いている時は早朝や深夜の飛行騒音が気になりました。定年になり、今は一日、家におりますので、突然聞こえる飛行騒音の繰り返し、そして、曇りの日の機体が見えずに爆音を立てる不気味さを、日々感じています。数機が編隊で来ると、騒音が何回も続くのでイライラして気持ちが悪くなります。

飛行機が旋回をして斜めに飛ぶと、下側の羽が落ちてくるのではないかと、編隊飛行が来ると飛行機同士が衝突するのではないかと、また近くのオリンパスの研究所にぶつかりそうな着陸体勢をとると、あれで大丈夫かなと、毎日のように心配になります。

3 私は、昨年4月半ばに突発性難聴になりました。5年前にも難聴を患っていたので2回目でした。それ以降、騒音を聞くとイライラする度合いが強くなりました。夜中の2時ごろに、飛行騒音、特に戦闘機の金属的な音や、大型輸送機のゴーという重たい音が耳に響き、眠れなくなったことがあります。そういうとき、また、突発性難聴やメニエル病になるのではないかと心配になります。

4 わが家に遊びに来た外孫たちが、庭のプールに入ったとき、庭が飛行機の影で真っ暗になり、ゴーという騒音を怖がって泣いて私たちに飛びついてきて、しばらく抱きしめてあげると泣き止むという経験をしました。

今は同居している3歳の双子の孫たちがいます。孫たちは町会会館の近くの保育園に通園しています。そこは飛行コースの真下にあります。今年の4月に、羽村市の中学校にパラシュートが落ちるとい事故がありました。沖縄の保育園の落下物事故やオスプレイ事故の報道を聞きますと、本当に、園児たちが心配になります。

飛行騒音で空を見上げる時、編隊を組んで戦闘機が旋回飛行しているのをよく見かけます。それを見ると、戦争を思い浮かべ、孫たちと園児たちが戦争に巻き込まれるのではないかと本当に、恐怖を感じています。

5 私たち、原告団八王子支部は、裁判だけではなく、八王子市役所と、毎月話し合う場を設けております。町会会館裏に設置した騒音測定機のデータを基に、現状を報告しております。八王子市は年間20日間の騒音測定しかしていないので、騒音測定機を設置して通年観測することや、市民への横田基地の情報の迅速な公開などについて、進めるよう申し入れています。さらにオスプレイの横田基地配備を目前にして、市役所の対策を聞くため、これからも話し合いを続けていきます。

今年の4月3日に、横田基地にオスプレイ5機をこの夏に配備することが発表されました。5日にはオスプレイ5機が横田基地に突然、飛来しました。危険極まりないオスプレイが横田基地に配備されようとしています。それに伴った超低空での訓練空域が、八王子市内の奥の方まで指定されています。八王子市に、この問題に真正面から取り組んでいただくためにも、その後押しになる裁判所の明確な判決が必要です。

6 昨年は、第1審の判決がありました。裁判所は、騒音の被害を認め、損害賠償は前回訴訟から増額がされました。しかしこの判決では、米軍機の差し止めは権限が及ばないとしています。

私たちの要望は、飛行差し止めにあります。飛行騒音がなくなることで私たちの生活や健康が取り戻せると思います。静かな夜を返しほしい、せめて、家族団らんの時間帯と夜間・早朝は飛ばないように要望しております。

私たちの要望は、最低限の要求だと思います。東京高等裁判所こそ英断を持って判決されることを、切に、希望しております。



「4月の飛行機騒音記録」の見方

5月4日の目視による『航跡図』が右図です。
 新型ハーキュリーズ(C-130J)が10機編隊で私たちの頭上を2時間に5回行き来しました。

一回目

横田基地を離陸し南を目指し飛行しました。
 10機がつながって飛行していましたが、観測器の記録は下記の6イベントとなっています。

時刻	LAmx	D. Time	BGN	LAE	飛行方向
	dB	秒	dB	dB	
11:39:35	72.4	28.3	37	83.5	離陸
11:40:04	74.2	29.2	38	84.7	離陸
11:40:56	76.6	12.8	38	83.0	離陸
11:41:36	74.2	28.7	38	84.5	離陸
11:43:07	72.8	16.9	38	80.9	離陸
11:45:39	68.5	12.1	39	74.6	離陸

6分間に渡り10機が飛行しましたが、D. Time が12秒台以外の4イベントに2機の騒音記録が重なっていると見られます。

二回目

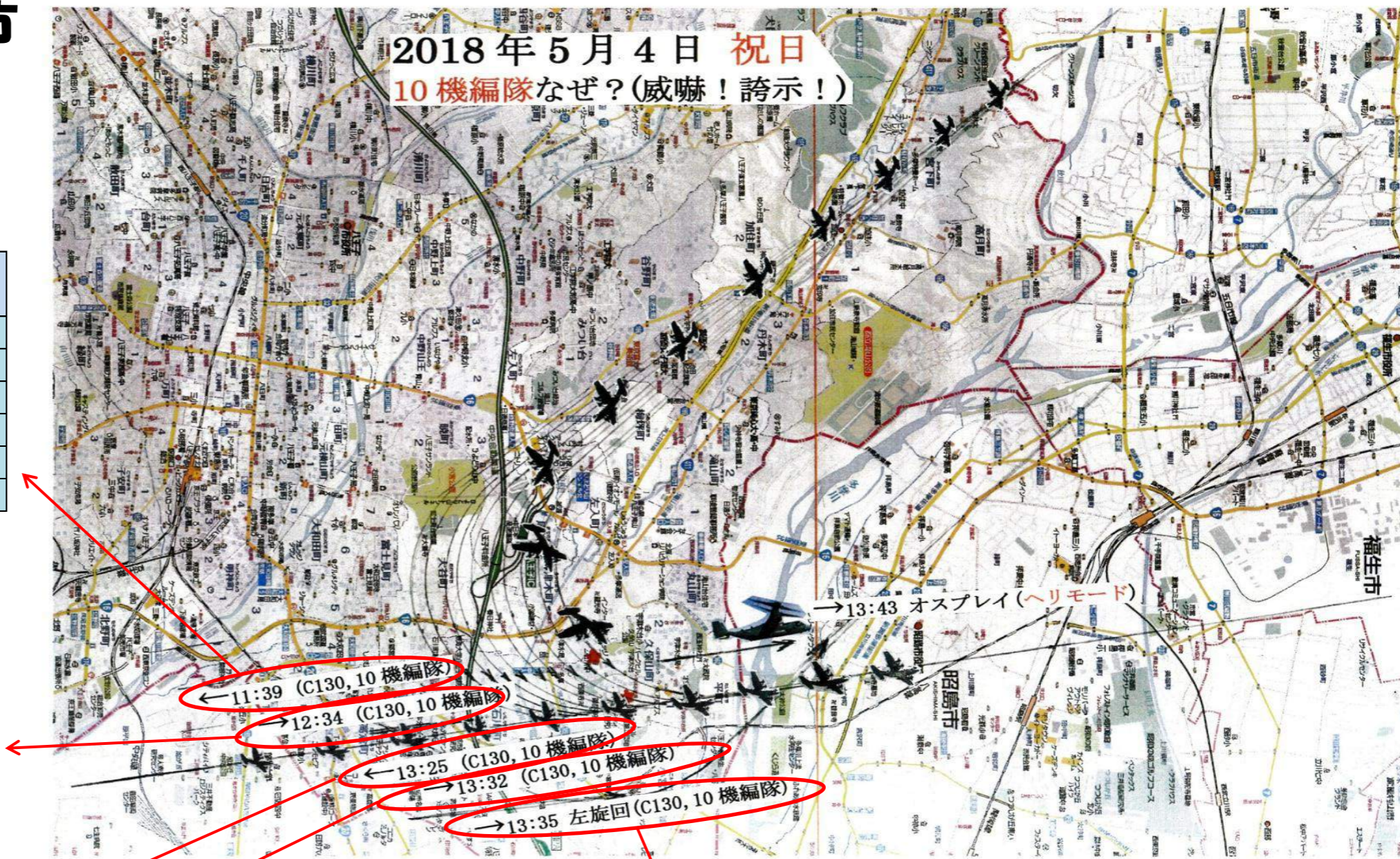
上記一編隊が横田方向に帰ってきた。
 この時の観測器記録データは9イベントで、どれに重なりがあるかは決め難いが、重なるの2機は相当近づきあっていたのではなかと推測する。

時刻	LAmx	D. Time	BGN	LAE	飛行方向
	dB	秒	dB	dB	
12:36:05	78.2	8.7	38	83.9	着陸
12:36:18	76.6	9.1	38	82.6	着陸
12:36:36	78.4	12.8	38	85.8	着陸
12:36:55	77.9	8.5	38	83.7	着陸
12:37:20	77.9	9.0	39	84.0	着陸
12:37:34	77.8	10.8	39	83.8	着陸
12:37:50	76.5	12.1	39	83.6	着陸
12:38:04	74.2	10.8	39	81.3	着陸
12:38:30	78.1	10.0	39	84.0	着陸

三回目

横田基地方向から南へ飛行しました。
 観測器記録データは同方向飛行の一回目より少ない、6イベントですが最後の集団が43.1秒の騒音時間であり、この飛行編隊の密集度が高い。

時刻	LAmx	D. Time	BGN	LAE	飛行方向
	dB	秒	dB	dB	
13:24:10	62.8	16.8	41	71.6	離陸
13:25:30	68.0	13.7	41	75.4	離陸
13:25:51	70.9	14.0	41	78.0	離陸
13:26:18	68.7	20.7	41	77.8	離陸
13:26:42	70.4	25.6	41	80.2	離陸
13:27:58	70.1	43.1	41	81.4	離陸



四回目

横田方向に帰ってきた、二回目の着陸方向への編隊飛行と比べ、少々高度が高くを飛行しているのか、または、低速、消音飛行の訓練飛行での結果なのか、あつという間に大集団

時刻	LAmx	D. Time	BGN	LAE	飛行方向
	dB	秒	dB	dB	
13:30:12	60.5	13.6	42	68.2	着陸
13:33:32	72.6	67.9	41	87.8	着陸

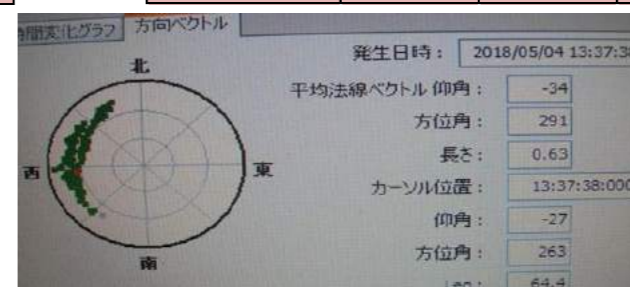


円の中心点が測定器の位置
 北に横田基地方向

五回目

四回目の集団が基地近くで左(西に)旋回し、観測器を中心にごろりと回り基地へ帰った。2個の密集集団がほぼ同じ長さの規模で通過した。

時刻	LAmx	D. Time	BGN	LAE	飛行方向
	dB	秒	dB	dB	
13:37:38	69.7	47.2	42	81.9	着陸
13:38:17	74.9	37.0	42	86.4	着陸



なぜここまで事細かに記録し、説明するか。

ハーキュリーズもうるさいのですが、あの事故の多いオスプレイが飛ぶと、騒音も低周波・低重音で、更に墜落という危険も身近になると心配するからです。

今までにない10機編隊で、低速、低高度でどこでも訓練飛行する姿は、この8月から配備されるオスプレイの訓練を同様に行うとしている米軍の「露払い飛行」ということができます。2015年のオスプレイ横田配備発表時の防衛大臣は、横田周辺でのオスプレイの編隊・低空・夜間訓練はハーキュリーズの訓練と同じであると説明していました。

対八王子市(環境部・環境保全課)交渉報告

5月22日(火曜日)10:00~11:30

於:八王子市2階

2015年12月の会合から続けてきたこの「交渉」も、多くの項目を話し合いながら、今回の対応ほど八王子市の本件に対する姿勢の問題をはっきり浮彫りにしたことはありません。添付した、別紙『4月騒音記録』も丁寧に説明しましたのを再録しました。



なぜ交渉を続けるのか?

今回の東京地裁立川支部の判決でも、今までの裁判同様、「騒音被害がある」と認めているにもかかわらず、行政(防衛省を始め、東京都と八王子市)は何らかの具体的な対策を取る様子はありません。

行政が私たちの不安を解決する努力をしない結果としてのこの『裁判』ですが、例え良い『判決』がなされようとも、行政がその『判決』を無視して、何もしないという態度を取り続けられれば、何の改善も進まないばかりでなく、私たちのこの努力も水泡となります。この思いから始まった、この八王子市との交渉で私たちは市の『基地飛行場の騒音』に対する問題意識が、私たちから見て大きな隔たりを感じ、この溝を埋めるべく、毎回資料として、図を作り、データをこまめに示し、実情を訴え、八王子市がこの問題で、上部の行政府・「東京都や防衛省」に改善策を具申するほどの実力をと期待し交渉を続けてきました。

「対八王子市交渉の論点整理」

として下記5点にまとめました。

①『騒音被害地区』をどう認識するか

八王子市には右図を示し、防衛省はこの地域を「騒音地区」と認めているが、現状の問題ある騒音に対して何の具体的な対策を取らない。八王子市として、市民の不安感を払しょくすることを考えるべきと迫り、まずは、「固定騒音測定器」を設置し、騒音の現状把握・データによる解析により、具体策を出すべきだ。



⇒市の対応

- ★現状の20日間の石川中の観測と、東京都や防衛省の観測結果と合わせ見ており、「現状の変化は認められない」ので、現行のままとする。
- ★原因者はわかっており、その対応は政府の『専管事項』であり、市としては、東京都下26市・市長会の中で東京都に対し、『日米協議』の遵守を要請してきたし、これからもそれを続けていく。

私たちの反論

ここ何十年何の進展もない。アプローチの仕方・内容をしっかり考えて進めるべきだ。

②『騒音観測』方法について

環境庁の騒音環境の調査方法は法令で決まっております、その結果で「環境」を評価する。この方式を軍用飛行場周辺に適用するのは問題が多い、と今まで個々のデータを示しながら、被害感のある現状を幾度となく説明しているのに、理解を示さない。

⇒市の対応

- ★東京都を始め、環境省のマニュアル通りに業務を遂行している。
- ★個々のデータ(騒音被害とするなら)に対応するのは課員が、窓口で聞く。
- ★航空機騒音の全体は課内で常に共有し、注視し、情報の把握はしている。

私たちの反論

「環境省のマニュアル」通りで『被害状況』を認識していない。私たちの主張に全く耳を聞いていない。

次回対八王子市交渉

7月3日(火)

午前10時より

③過去の記録から何を読み取るのか
私たちが毎月「飛行機騒音記録」を示し現状を説明するのは、何も過去の記録を見るだけでなく、8月よりのオスプレイ配備という具体的将来を心配していることが大きい。だから市の対処を要請する。

⇒市の対応

- ★東京都等へ『実態把握』の要請はしている。一方環境基準での測定結果に大きな差異が出ていないので、現行マニュアル通りでよい。

私たちの反論



『現行マニュアル通りでよい』の一点張りはおかしい。市長・部長の言葉を聞きたい。

④環境部長本人から直接確認したい

この二年半続けてきたこの会合で、私たちは十分な説明の上「要望」「要請」をしているのに、こんな回答の言い方は信じがたい。市民への対応の仕方とは思えない。先月の会合でも「部長の時間が取れば、こちらはいつでも出向く」と提案しているのに、その回答すらない。

⇒市の対応

- ★検討はしています。

私たちの反論

すぐにやるべきだ

⑤ホームページ問題

防衛省北関東防衛局の「横田情報」を八王子として、「ホームページ」に掲載とのことなので、掲載時刻をケースごとの記録の開示を求めた。

- ① 総務部と環境部は情報を即座に共有できているのか。

⇒市の対応

- ★オスプレイ事案のみ、着信後ただちに環境保全課にメールを流している。
- ★右回答の5/4のサムライ・サージは連絡の対象になっていない。

私たちの反論

- ☆オスプレイの4/5横田飛来の際は課員が石川中学にすぐに「低周波観測器」を持参して来たとのこと、現場へ来る動きに期待していたが、5/4のサムライサージにはなんの行動もないとは、現場被害に対応し、現状を把握せよ。

- 先月の会合でも論じたが、ホームページの「騒音報告」の文章「環境基準を達しています」では、「騒音問題」は『解決している』と表現していることとなる。

- △ オスプレイの表示も不親切だ
90件もあるのに最近のがトップに来ていないし、論理矛盾のある内容をチェックせずに情報を垂れ流しているように見受けられる。

墜落、落下物、騒音被害の心配は読み取れない。

⇒市の対応

- ★誤解を与えかねないとの意見ならば検討する。

総務部総務課の文書回答 北関東防衛局からの情報事項 (メールによる)			
		到着日時	掲載日時
5/4	オスプレイ横田飛来	5/4 14:15	5/7 09:27
5/4	サムライ・サージ	5/1 17:41	5/2 09:14
4/13	オスプレイ横田離陸	4/13 16:27	4/13 16:55
4/5	オスプレイ横田飛来	4/5 11:37	4/5 正午



八王子市のホームページをチェック
打合せ内容を確認中

私たちの反論

ホームページに掲載すれば、「市民への広報」が成り立っているというもおかしいもので、「市の広報」にオスプレイの「オ」も出てきたことはない。なにか自己満足だけで済ますようでおかしい。

4月の飛行機騒音報告

騒音対策委員会

2018年5月9日

4月騒音回数総計は583回

100dB以上	90~100dB	85~90dB	80~85dB	75~80dB	70~75dB	60~70dB
0	4	7	62	158	154	198

特記事項

5月4日の特集です

4月21日に新型ハーキュリーズの12号機到着。更に、27日には最後の2機が到着し、常駐14機すべて『新型』に代替えされた。これに合わせ、編隊による訓練も多くなり騒音回数も3月557回を大きく超え、高止まりである。

『極東情勢の緊迫化』なのか、超大型輸送機C-17の飛来も相変わらず多く、世界各地からの戦闘機もまた、それに合わせ空中給油機も同伴飛行で見られ100dBを超える騒音記録はないが、心配ではある。



空中給油機
KC-30A
5/4の13:39
LAmax 87.0
D.Time 24.3秒

新型ハーキュリーズ そろそろ

アメリカ版「出初式」開催か！！！！



5月4日午前11時ごろ横田飛行場に駐機する全ての飛行機が出そろい、11時半ごろ今までにない大規模な(10機による)編隊飛行が基地周辺で開催された。当地の自動騒音測定器の記録によれば、11:40, 12:40, 13:35, の三回この大編隊低空旋回飛行が確認された。13時32分の写真には4機しか入らなかった。測定器の「方向ベクトル」(下記)では複数機の騒音記録が重なっている。



右の表で「離陸」方向とは基地からの旋回「着陸」方向とは旋回後の通過

時刻	LAmax dB	D. Time 秒	BGN dB	LAE dB	飛行方向
11:39:35	72.4	28.3	37	83.5	離陸
11:40:04	74.2	29.2	38	84.7	離陸
11:40:56	76.6	12.8	38	83.0	離陸
11:41:36	74.2	28.7	38	84.5	離陸
11:43:07	72.8	16.9	38	80.9	離陸
11:45:39	68.5	12.1	39	74.6	離陸
12:36:05	78.2	8.7	38	83.9	着陸
12:36:18	76.6	9.1	38	82.6	着陸
12:36:36	78.4	12.8	38	85.8	着陸
12:36:55	77.9	8.5	38	83.7	着陸
12:37:20	77.9	9.0	39	84.0	着陸
12:37:34	77.8	10.8	39	83.8	着陸
12:37:50	76.5	12.1	39	83.6	着陸
12:38:04	74.2	10.8	39	81.3	着陸
12:38:30	78.1	10.0	39	84.0	着陸
13:24:10	62.8	16.8	41	71.6	離陸
13:25:30	68.0	13.7	41	75.4	離陸
13:25:51	70.9	14.0	41	78.0	離陸
13:26:18	68.7	20.7	41	77.8	離陸
13:26:42	70.4	25.6	41	80.2	離陸
13:27:58	70.1	43.1	41	81.4	離陸
13:30:12	60.5	13.6	42	68.2	着陸
13:33:32	72.6	67.9	41	87.8	着陸
13:37:38	69.7	47.2	42	81.9	着陸
13:38:17	74.9	37.0	42	86.4	着陸

上の表の項目説明

時刻—その飛行の最高値を記録した時刻
LAmax—その飛行の騒音の最高値
D. Time—その飛行の騒音を記録した時間
BGN—その飛行の騒音時の地上音
LAE—総騒音を一秒間換算のエネルギー量
飛行方向—飛行場方向へ着陸か離陸か

4月4日飛来の

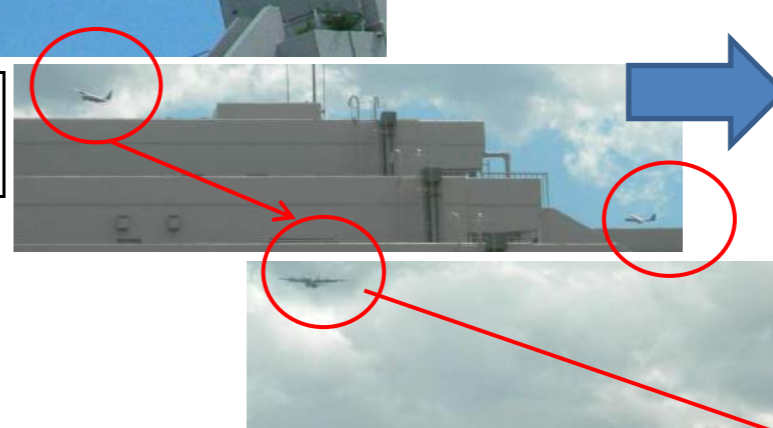
横田配備のオスプレイ5機の騒音記録

右の図のようにだいぶ西側を飛行した。

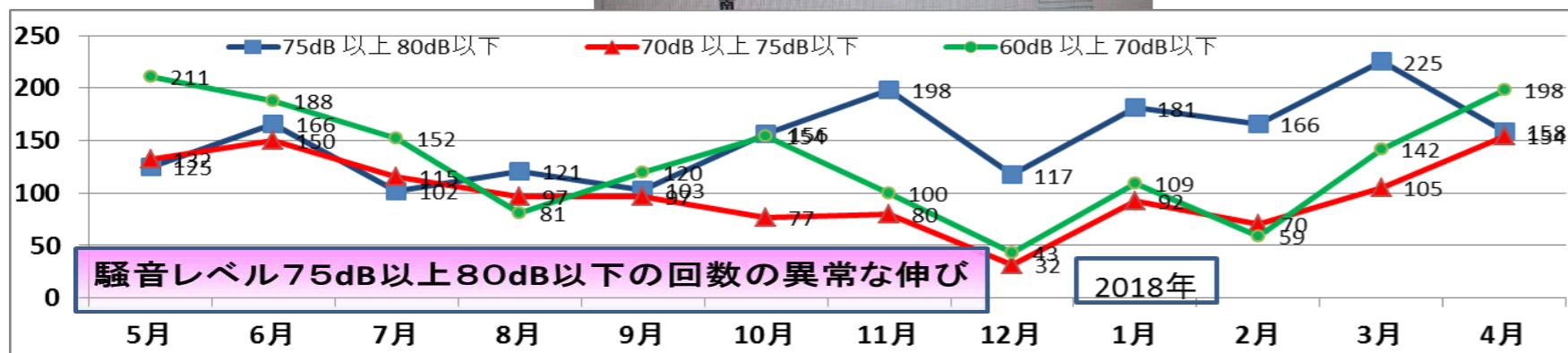
時刻	LAmax dB	D. Time 秒	BGN dB	LAE dB
11:23:06	77.5	28.7	59	86.4



上の写真の直後、右を見ると後続機が旋回中で低く飛行先頭の飛行より西側に来た。



西側から旋回して来たことがわかる。



当日(5/4)の13:44には沖縄普天間基地の海兵隊所属MV22オスプレイが飛来、ヘリモードで飛行。LAmax 82.1, D.Time 24.3秒